ともに生きる

誰もが住みやすいまちに

AIDS文化フォーラム

in 陸前高田　報告書

前日設営

11月22日（土）18時から21時
屋内設置＝ほぼ終了
屋外設置＝ステージ設置（テント天幕張らない）
展示ブース（テント設置のみ、天幕張らない）
舞台用パレットが2種類の大きさあったため、準備していた
ベニア板等に不足が生じた
FM舞台のテーブル2本は軽量ブロックなどで足置を作り載せた
お客様の移動の妨げになった
FM用テーブルの化粧幕は松木さんより調達
風除室や店内など準備でお客さまの邪魔になった
（カート利用・ベンチ利用）

当日の朝

1. 前日設営・当日の朝 ・・・P 2
2. 目次　AIDS文化フォーラム とは ・・・P 3
3. プログラム一 ・・・P 4
4. オープニング ／ ともに生きる ・・・P 5
5. ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり ・・・P 6
6. イオンスーパーセンター陸前高田店　新人　吉田真悠子さん ・・・P 6
7. 子どもたちとの関わりから見えるHIV・AIDS、デートDV ・・・P 8
8. つながるAIDS文化フォーラム 横浜、京都そして佐賀へ ・・・P 9
9. 屋外発表①　米崎保育園園児の皆さんとたかたの「ゆめちゃん」 ・・・P10
10. 屋外発表②　星ひかりさん ・・・P10
11. 屋外発表③　平成26年度手話講習会　受講生の皆さん ・・・P11
12. 屋外発表④　エンディングセレモニー　～ぼくらにできること～　Funny Pig （まっと＆モサ＆政吾） ・・・P11
13. 屋外展示 ・・・P12
14. メッセージコーナー「陸前高田　未来図メッセージ」　Tシャツ制作 ・・・P13
15. 新聞記事 （東海新報、岩手日報） ・・・P14
16. いろいろメモ ・・・P15

● AIDS文化フォーラムとは？

1994年、横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手による、市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO、NPO、学生、PWA/H、行政、個人はもちろんのこと、様々な分野で活動している人たちが集まり、発表・展示・交流を行っています。横浜では2014年に21回目を迎えました。2005年に陸前高田市で始まったHIV/AIDSのイベントが2013年にAIDS文化フォーラム in 陸前高田として復活。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシャリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育・・・私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

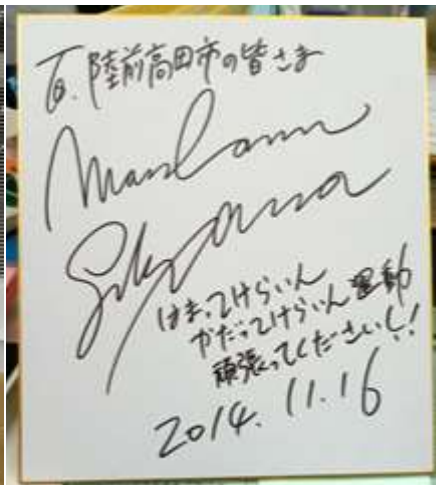
● *広がるAIDS文化フォーラム*

横浜で始まったAIDS文化フォーラム は京都、陸前高田へと広がり、2014年度には佐賀に広がりました。これは単にHIV/AIDSの問題に向き合うだけではなく、HIV/AIDSを通して生きること、偏見や差別に関することなどを、様々な角度から考える場になっているからだと考えています。

● *はまってけらいん　かだってけらいん運動*

陸前高田市保健医療福祉未来図会議では、市民一人ひとりが様々なストレスと上手に付き合うために、日常生活（買い物、農作業、病院など）のあらゆる場面、様々なイベント（七夕、太鼓祭りなど）などの機会に***はまって***（集まって）***かだる***（語る）ことで、お互いの経験や情報を共有し、少しずつ余裕を身につけて行くことを目指した運動を展開しています。

福山雅治さんからの応援メッセージ



AIDS文化フォーラム in陸前高田
ともに生きる　～誰もが住みやすいまちに～

2014.11.23(日)　プログラム

時　間	内　　容
10:00～ 10:15	オープニングセレモニー　　（※パネル展示は終日実施）
10:15～ 10:30	屋外ステージ発表①　米崎保育園児の皆さんとたかたの「ゆめちゃん」
10:30～ 11:30	陸前高田災害ＦＭ「出前元気の達人講座」公開収録① ～ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり～ 陸前高田市　副市長　久保田崇氏 一般社団法人　陸前高田青年会議所　副理事長　高橋勇樹氏
11:30～ 12:00	屋外ステージ発表②　星ひかりさん（※陸前高田市米崎町出身）
12:00～ 13:00	陸前高田災害ＦＭ「出前元気の達人講座」公開収録② ～子どもたちとの関わりから見えるHIV・AIDS、デートDV～ ウィメンズクリニック・かみむら　院長　上村茂仁氏
13:00～ 13:30	屋外ステージ発表③　平成26年度手話講習会受講生の皆さん
13:30～ 14:30	陸前高田災害ＦＭ「出前元気の達人講座」公開収録③＆ライブ ～つながるAIDS文化フォーラム　横浜、京都そして佐賀へ～ AIDS文化フォーラムin横浜　実行委員会メンバー AIDS文化フォーラウin京都　実行委員会メンバー Funny Pig(まっと＆モサ＆政吾　※陸前高田市米崎町出身)
14:30～ 15:00	エンディングセレモニー（屋外ステージ発表④） ～ぼくらにできること～ Funny Pig(まっと＆モサ＆政吾　※陸前高田市米崎町出身) 一般社団法人　陸前高田青年会議所　理事長　佐藤彰氏

元気の達人講座

陸前高田市を元気にする健康番組番組

岩手医科大学　いわて東北メディカル・メガバンク機構　　佐々木亮平
ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ）　岩室紳也
MC　陸前高田災害FM　　阿部裕美

オープニングセレモニー

久保田崇陸前高田市副市長のあいさつでスタート

ともに生きる

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり

出演者　久保田　崇　　陸前高田市副市長
高橋　勇樹　　陸前高田市青年会議所副理事長
岩室　信也　　ヘルスプロモーション推進センター(オフィスいわむろ）医師
佐々木　亮平　岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構
臨床研究・疫学研究部門地域住民コホート分野特命助教
阿部　裕美　　災害FM（ＭＣ）

内容

陸前高田市とAIDS文化フォーラムとのつながり
佐々木が大船渡保健所に所属していたころに（震災前）にさかのぼる。
佐々木が感染症担当であり、当時の陸前高田市青年会議所がAIDSを勉強するため、講師として招いたのが始まり。
その後、青年会議所が何か自分たちにできることはないかと考え、2005年に“ストップAIDS”のイベントを開催。
当初より、ADIS啓発活動よりも「人と人が繋がる」ことに主眼が置かれていた。
現在市で取り組んでいる「ノーマーライゼーションという言葉のいらないまちづくり」につながるものもある。

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり
市は、普段から多様な人が生活しやすい場所は、災害が起きた時でも避難などしやすい場所という思いでまりづくりを進めている。
実際に避難所では、配慮が必要な方に部屋を分ける、授乳室を設けるなど、生活がしやすい工夫がされていた。
陸前高田市の、新たなまりづくりとノーマライゼーションを同時にやっていくことは、世界でも初めての取組である。
今回のフォーラムのサブテーマの「ともにいきる」も大事である。
「はまってけらいん　がだってけらいん」運動に通じるところがある。
いろいろな人と話し、繋がり共生することが大切である。
少しでも陸前高田市の役に立ちたいとの思いで副市長に赴任したが、いろいろな方と話をすことで学ぶことが多い。
市では「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」について具体的なアクションプランを作っている。
今後広く市民の皆様にもご意見を伺いたいと考えている。

青年会議所の取り組み
青年会議所としても”まちづく”をすすめたい。
特に自然再生可能エネルギーを採用できないか研究している。
防災メモリアル公園についても世界に発信できるものにしたいと考えている。
「命をつなぐ」ことが感じられるまちにしたい。
震災から何を学び何を伝えるか。
避難所ではそれぞれが助け合い、思いあっていた、それが普通だったし自然にみんなができていた。
それこそがノーマライゼーションという言葉がいらないことではないか。
もともと絆の強い地域なのでできたと思う。
出来ることを出来る人が行なっている、思いを繋ぐ、そんなまちができるとうれしいと思う。
ノーマラーゼーションの意味は難しい。
皆さんのなかにはピンとこない方も多いのではないか。
具体的にどのようなまちにしていくか、繰り返し説明することが必要。
お互いさまのまち。例えば障害をお持ちの方が陸前高田にきても不自由を感じない、障害という概念（差別や区別）がないまち。
バリアフリーなど制度や仕組みが必要ない社会、皆が寄り添い手伝うまち。
災害時の避難についても普段からの顔の見える関係が重要であり、その関係作りにも“はまって　かだる”ことが重要である。

妊産婦・外国人・けがをしている人も安心して過ごせるまちにしたい。
また、まち全体で学び合うことができるような自然な“つながり”が必要。
“はまかだ”で地域が活性化され絆のあるまちがよい。
ノーマラーゼーションのカギは地域力であると思う。
お互いさまの精神の共有。
“はまかだ”を意識して行うことが重要。
この“はまかだ運動”を全国に伝播したい。
お互いに優しく手を差し伸べられるまち。お互いさまの精神と多様性を認め合う。
辛くて厳しい経験をした私たちだからこそ、その経験を生かし地域力を高めたい。
あらゆる人が楽しんで生活できるまちを目指していきたい。

FM収録でお客さんが溜まった＝売場の移設・通行案内

イオンスーパーセンター
陸前高田店
新人の吉田真悠子 さん

買い物で皆さんを元気にしたい！！！
お母さんを見ていて、同じ道に！！！

子どもたちとの関わりから見えるHIV•AIDS、デートDV

出演者　上村　茂仁　　ウィメンズクリニック・かみむら（岡山）（産婦人科医）
岩室　紳也　　ヘルスプロモーション推進センター(オフィスいわむろ）（泌尿器科医）
佐々木　亮平　岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構
臨床研究・疫学研究部門地域住民コホート分野特命助教（保健師）
阿部　裕美　　陸前高田災害FM（ＭＣ）

内容

デートDVって何？

恋人同士の一方的束縛、一杯約束をさせて支配すること。

加害者側

・DVの人は最初は出会ったことがないほどすごく優しい
　→メールはすばらしく優しい
　→信頼感を持たせるようにする
　→面倒を見てくれる

・付き合って間もないのに、すぐに結婚しよう、すぐ指輪をくれる、などとにかくすぐつながろうとする

被害者側

・根っこのところは寂しい
　→「彼がいれば私は頑張れる」という思いはDV被害者になる可能性がある
　→寂しさを紛らわすことができないからDVになる
　→愛情が、好きだという思いが強すぎる

境界線は難しい＝付き合うということは約束をすること。
　→少しずつ「怖い」と思う瞬間がある
　→男性は殴る蹴る、性的暴力
　→女性は涙や約束（すぐ会いに来てくれないと死ぬ→60分、50分、40分、30分、20分、10分、5分、さようなら）
　　→慌てて行っても会わず、翌日はしらっとしている

カップルがお互いにこころが病んでいる

ストーカーは恋人とは限らないのでDVではない

愛があれば、相手を自由にしてあげられる
　→愛の反対は無関心
　→最後まで優しい人はDVをしない

昔は会うこと、連絡することが困難だった
　→友達に話せれば「おかしい」と気づいてくれる
　→**「はまかだ」**をしていれば気づく

相談に際して
　→DVだと納得させるのは難しい
　→「いつでも相談に乗るから」しかない
　→居場所になる

子どもたちに話すこと
　→デートDVについて自分で自覚しない
　→周りが気づくしかない
　→心を打ち明けられる仲間や友達が必要
　→はまかだ（運動）が基本

関係性の希薄化
　→耳から入る情報を増やそう
　→友達としゃべって、ラジオを聞いて、コミュニケーションを増やそう

デートDV予防に「はまかだ」
全ての基本が「はまかだ」
　→メール、LINE、カラオケ、ゲームはコミュニケーションではない
　→あいさつ運動、おしゃべりを大事に！

上村先生と林先生は、出演終了後、
イオン内講師控え室にて昼食を
召し上がってからの花巻空港へ出発

つながるAIDS文化フォーラム 横浜、京都そして佐賀へ

出演者 *Funny Pig　　まっと＆モサ＆政吾（入替り）*
佐々木　亮平　AIDS文化フォーラム in 陸前高田
林　　茂　　AIDS文化フォーラム in 京都
岩室　紳也　　AIDS文化フォーラム in 横浜
阿部　裕美　　陸前高田災害FM（MC）

内容
・テーマ曲「ぼくらにできること」の作曲の経緯
Funny Pig→初めてこの事業に参加した時に感じた「つながり、参加する事に意味がある」と言う思いをこめて7年前に作曲した。
・AIDS文化フォーラム in 横浜
岩室→HIV/AIDSの人達が安心して暮らせるまちづくりを目指し、「文化」と言う部分にこだわり、一般の方々が気軽に参加できる、できる人ができる事を積み重ねたフォーラムとして継続している。
・AIDS文化フォーラムin京都　開催の経緯
林→行政との関わり、いろいろなつながりをもって開催できた。
Funny Pig→参加して感じた事は「人があたたかい」。
AIDSと言うカテゴリを通して「夢」について語りあえた。
・これからのAIDS文化フォーラムについて
岩室先生→ HIV/AIDSに対して一人一人が出来る事は実は少ない。しかし、突き詰めていくと「人と人とのつながり」になり、すべてはつながる（関わりをもっていく）事が大切である。
林→AIDSは治療すれば良いと言う病気ではない。周囲の偏見をとりのぞき、心のケアは必要で、その事を伝えたい。
佐々木→AIDS「を」ではなくAIDSに学ぶ。
「人と人のつながり」が大切でこれからも伝えていきたい。
Funny Pig→自分達とって音楽というのは「楽しい」から活動している。この楽しさを伝えながら音楽を通じてこれからもこの事業を広げていきたい。
岩室→HIV/AIDSへの理解の輪が少しずつだが全国へひろがってきている。
AIDS文化フォーラムin佐賀へつなげたい。来年も開催します！！

STOP！AIDS！　in　陸前高田　テーマソング

ぼくらにできること

作詞・作曲　金野政利・美奈

1　自分を守ることが　誰かを傷つけることじゃないと知り
自分を守ることで　誰かが去っていくんじゃないと知った
「愛」という言葉に縛られて　自分を見失っていく
大丈夫　ボクもワタシもそうだった

ぼくらにできること
ただ「理解する」こと
＊　ぼくらにできること
ただ「伝える」こと
そしてたくさんの仲間と「集う」こと
・・赤いリボンつけて

2　愛の形は様々で　正しい答えはないと知った
限られた時間だからこそ　今を大事にできると知った
次の恋　その次の出会いがあったとしても
君はもう傷つかない　傷つけないよ

＊　繰り返し

3　大の大人は遠すぎて　別の世界と思ってる
学んだボクらは少しでも　仲間を守りたいと思ってる
ボクらが動くのは　小さな「架け橋」になりたいだけ
手をつなごう　表も裏も愛は愛

＊　繰り返し

大切な人に歌うこと　ぼくらにできること

YouTubeにアップされている
「ぼくらにできること」　→

屋外発表①　米崎保育園園児の皆さんとたかたの「ゆめちゃん」

31名の園児が、元気いっぱいの踊りを披露し、
オープニングに華を添えてくれました。

「おにぎりおんど」ほか

屋外発表②　星ひかりさん

米崎町の高校生歌手、星ひかりさん。
復興に対する思いを込めた
デビュー曲「輝け命」
など2曲を熱唱しました。

屋外発表③　平成26年度手話講習会　受講生の皆さん

幅広い年代の受講生の皆さんが、
「ぼくらはみんな生きている」「ふるさと」の2曲
を披露してくれました。

屋外発表④　エンディングセレモニー　～ぼくらにできること～
Funny Pig　（まっと＆モサ＆政吾）

米崎町出身の3兄弟によるユニット、Funny Pig。
このイベントのテーマ曲「ぼくらにできること」など
オリジナル曲を披露。
その力強い歌声と演奏は観客を魅了しました。

屋外展示

【展示団体】
・AIDS文化フォーラムin京都実行委員会
・AIDS文化フォーラムin横浜実行委員会
・日本赤十字社京都府支部青年赤十字奉仕団
・陸前高田市
・岩手県大船渡保健所

【展示ブースの様子】

会場となったイオンスーパーセンター入口横に、各団体が思いを込めた展示ブースが設置されました。当日は天候も良く、レッドリボンアーチとはまかだのぼりが良く映える展示風景となりました。

テント内には、各団体における活動内容紹介や、HIV/AIDS、性感染症、デートDV等の予防啓発パンフレットやグッズが展示され、色とりどりの展示ブースは来場者の興味関心を惹いていました。

年齢や性別に関係なく、またAIDSに限らず様々な予防普及啓発の場となったことで、たくさんの人々が、HIV/AIDS、性感染症、デートDV等を他人事ではなく、自分のこととして考えるきっかけになりました。

大船渡保健所

AIDS文化フォーラム in 京都

陸前高田市思春期教室

全国青年赤十字奉仕団

AIDS文化フォーラム in 佐賀

メッセージコーナー「陸前高田　未来図メッセージ」

【メッセージコーナーの様子】

イオンスーパーセンター店内正面入口に、メッセージコーナーを設置しました。

このメッセージは、今回のイベントテーマ「ともに生きる～誰もが住みやすいまちに～」に基づいて、陸前高田市の未来に願いを込めたメッセージであり、会場に訪れた保育園児から子育て世代パパママ、高齢者の方まで、たくさんのメッセージを書いてもらいました。

メッセージの中には、可愛らしい文字で「みんなをえがおにしたい！！」「いっぱいともだちをえがおにできるように」と書かれた子どもたちからの言葉や、力強い文字で「以前のような元気な街に戻ってほしい。松原もよみがえってほしい」、「みんなが笑顔になれますように!!」と心からの願いを込めた言葉が数多く寄せられました。

陸前高田市がさらに復興に向けて歩んでいくことを願う、地域住民の想いが詰まったメッセージツリーが完成しました！！

Tシャツ制作

「ともに生きる」ためには「はまってけらいん、かだってけらいん」が大事だという思いで制作されたTシャツです。

「はまかだ」で「ともに生きる」

新聞記事

平成26年11月24日
東海新報

仲間づくりが大切
エイズ文化フォーラム
陸前高田で

「ともに生きる～誰もが住みやすいまちに～」をテーマとしたＡＩＤＳ（エイズ）文化フォーラムin陸前高田は23日、陸前高田市米崎町のイオンスーパーセンター陸前高田店で開かれた。交際中の若いカップル間で暴力が起きるデートＤＶをテーマとしたラジオ公開収録や、市民らによるステージ発表が行われ、不安や悩みを分かち合える仲間づくりの大切さを発信した。

エイズへの理解や予防策を学ぶとともに、さまざまな人々との出会いを通じて、地域のつながりを深めようと企画。陸前高田青年会議所、陸前高田市、県大船渡保健所、ＡｉｄＴＡＫＡＴＡ、陸前高田災害ＦＭによる実行委が主催した。

上村さん（左から２人目）らを交えた公開収録㊤、将来のまちづくりへの期待を飾り付ける企画も＝米崎町

オープニングセレモニー後、屋外ステージでは米崎保育園児らが発表。陸前高田災害ＦＭ「出前元気の達人講座」公開収録には、久保田崇副市長も参加した。

同番組は通常、毎週水曜日午後2時から放送。岩手医大いわて東北メディカル・メガバンク機構の佐々木亮平さんとヘルスプロモーション推進センターの岩室紳也さん、同ＦＭの阿部裕美さんらで健康情報などを伝えている。

同町出身歌手・星ひかりさんの歌声披露に続き、再び公開収録。「子どもたちとの関わりから見えるＨＩＶ・ＡＩＤＳ、デートＤＶ」と題し、ウィメンズクリニック・かみむら（岡山県）院長の上村茂仁さんが、佐々木さんや岩室さん、阿部さんとともにエイズ感染の危険がある性暴力などに至る心理状態や予防策を語り合った。

上村さんは「デートＤＶは加害者、被害者内では気づかず、むしろ幸せなカップルと思いこんでいる場合もある。そうであれば、周囲が気づくしかない。恋愛の前に、心を打ち明けられる仲間を見つけてほしい」と強調。耳を傾けていた若者たちを前に、普段から気軽に語り合える友人づくりの大切さを訴えた。

会場では市が進める「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」への期待を来訪者が記し、赤いリボンとともに飾りつける企画も。エイズに関連した活動を紹介する展示のほか、市の手話教室受講生による歌に合わせた手話披露も行われた。

ニュースクリップ

■陸前高田でエイズフォーラム

「ＡＩＤＳ文化フォーラムｉｎ陸前高田」（陸前高田青年会議所など主催）は23日、陸前高田市米崎町のイオンスーパーセンター陸前高田店で開かれ、地元ＦＭラジオの公開収録などで市民らに正しい理解を求めた＝写真。

公開収録は陸前高田災害ＦＭが生放送を兼ねて行い、横浜と京都のＡＩＤＳ文化フォーラムの実行委メンバーが参加。正しい知識を持ち、偏見を持たないようにしていくべきだと呼び掛けた。デートＤＶやエイズなどに関するパネルも展示した。

同会議所の佐藤彰理事長は「正しく理解することが、エイズへの偏見を持たず、共に生活していく一助になってほしい」と願った。収録分は12月３日から６回に分けて放送する。

平成26年11月24日
岩手日報

いろいろメモ

平成26年度　AIDS文化フォーラムin陸前高田　記録

日時：　平成26年11月23日（日）午前10時から午後3時まで　晴天（気温17℃）

参加人数（報告書掲載者は除く）：

市民約800人（記念品配布300人＋α）
米崎保育園　園児30人・保育士6名（園長含む）
陸前高田手話講習会受講生13人
京都青年赤十字奉仕団7人
大船渡保健所3人（送迎1人・準備撤収1人）
高田ミュージッククラブ　3人

出演者57人
星ひかり＆師匠
AIDS文化フォーラムin京都　4人
陸前高田青年会議所10人
陸前高田災害FM　2人
市役所14人（副市長・部課長含む）

配布物は昼過ぎに終了

AIDS文化フォーラム in 横浜(H27.8.7･8･9)
AIDS文化フォーラム in 京都(H27.10.3･4)
AIDS文化フォーラム in 陸前高田(H27.11.22)
AIDS文化フォーラム in 佐賀(検討中)

●主催●
平成26年度AIDS文化フォーラム in 陸前高田実行委員会（一般社団法人陸前高田青年会議所、陸前高田市、岩手県大船渡保健所、NPO法人 AidTAKATA陸前高田災害FM）

●後援●
大船渡市、住田町、大船渡市教育委員会、陸前高田市教育委員会、住田町教育委員会、
岩手県立高田病院、一般社団法人気仙医師会、 公益社団法人岩手県看護協会大船渡支部、
東海新報社、岩手日報社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、
岩手朝日テレビ、特定非営利活動法人けせん・まちの保健室、 FMねまらいん、希望ヶ丘病院

●助成金●
公益財団法人公益財団法人エイズ予防財団（平成26年度エイズ予防財団助成事業）
公益社団法人日本青年会議所(JAYCEEの絆応援団)

♪Special Thanks♪ （会場協力）イオンスーパーセンター陸前高田店
（チラシ・Tシャツデザイン）母袋秀典

平成26年度AIDS文化フォーラム in陸前高田報告書
発　行　日　平成27年3月
編　　集　一般社団法人陸前高田青年会議所（岩手県陸前高田市高田町字中田43番地２号）
陸前高田市役所（岩手県陸前高田市高田町字鳴石42番地５号）
岩手県大船渡保健所（岩手県大船渡市猪川町字前田６番地１号）